



授業づくりのQ&A —小学校図画工作科—

Q1: 図画工作科では、導入が一番重要だと聞いたことがあるのですが、どのようなことを意識するとよいですか？



A: 意識することは、児童が「やってみたい。」「おもしろそう。」と思うように活動への意欲を引き出すことです。また、児童が活動の見通しをもつことができるようにすることです。端的に提案することを心掛けて、「導入」を行うことが大切です。

☞ [「授業デザイン FIRST STEP Vol.1 『導入』編」](#)

☞ [「授業デザイン FIRST STEP Vol.2 『見通し』編」](#)

Q2: 児童への声掛けがいつも同じような内容になってしまいます。どのような声掛けをするとよいですか？



A: 声掛けは、その場面に応じて、目的をもって行うことが大切です。児童の活動を賞賛するときは、発問を通して、共感的な声掛けを心掛けましょう。そうすることで、児童は手応えを感じたり、安心感や自信をもったりすることができ、自分のイメージを明確にすることもできます。また、児童が安心して活動に取り組むことができるようにするための声掛けが必要な場面もあります。注意すべきことは、児童の発想を狭めるような発問や声掛けにならないようにすることです。

☞ [「授業デザイン FIRST STEP Vol.4 『手立て』編」](#)

☞ [「授業デザイン FIRST STEP Vol.5 『声掛け』編」](#)

Q3: 授業において、いつも片付けが授業の中で終わりません。児童が自分から片付けに取り組むことができるようになる方法がありますか。



A: まず学級全体で片付けまでの見通しをもち、具体的な時間や手順を提示しましょう。教室を元の状態に戻すように伝えることで、児童はすべきことを見だして片付けに取り組むことができるようになります。それでも終わらない場合は、学級全体でよりよい片付けの方法を考え、実践しましょう。児童自身が、時間を短縮することを実感できれば、その方法で片付けることが身に付いていきます。

☞ [「授業デザイン FIRST STEP Vol.6 『片付け』編」](#)

Q4: 学習評価が難しいです。どのようなところを見取り、学習評価を行えばよいですか？



A: 学習評価を行うためには、観察を大切にして、児童の造形活動における行為を見取ります。さらに、児童の意図を引き出すための対話や、ワークシートや作品カードなどの児童による記述、そして作品など、多様な視点から見取りを行うことに努め、妥当性や信頼性を高めていくことが大切です。そのためには、題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にして指導を行った上で、学習評価を行っていくことが大切です。

☞ [「学習評価の進め方 小学校 図画工作科」](#)